



24

地域に支えられ、楽しく安心して

学校生活を送れる学校

釜小学校

今回は、釜小学校を紹介しします。

市の中心部から西南に位置する釜小学校は、児童数が67人（5月1日現在）と、東松島市や女川町を含む石巻管内では一番の規模を誇ります。創立は昭和21年で、学校の北側には、毎年夏の一定期間、松並木がライトアップされることで知られている北北上運河川公園があり、理科や総合の授業でもよく訪れています。

釜小学校では、地域の皆さんとの関わりが深く、相互の交流を深めることにより学校教育の振興を図っています。毎年11月の第一日曜日に開催される「釜小秋まつり」もその一つで、数年前からは持久走大会も同じ日に行われるようになりました。



▲元気よくスタート！（持久走大会より）

この「釜小秋まつり」では若葉児童会、PTAや地域の育成会の皆さんはもちろん、児童



▲上手に切れました！（丸太切り体験より）

わたあめや射的などの出店、バザーなど盛りだくさんの内容で行われます。また、6年生が収穫した大根や白菜などを使い、育成会の皆さんが豚汁を振る舞つなど参加者全員が楽しい一日を過ごす、まさに学校と地域住民が一体となった恒例行事です。

ほかに地域の皆さんは、率先して通学路の要所に立つなど、日ごろから子ども達を見守っています。そのお陰で子ども達は、安心して元気に学校生活を送ることが出来ます。

学校では、「思いやりのある子ども」「進んで学ぶ子ども」「たくましい子ども」を目指しており、校長先生は学期末ごとに子ども達にどのくらい近づけたか問いかけるそうです。

地域の皆さんに暖かく見守られながら学校生活を送っている釜小の子ども達なら、その問いかけに元気よく手を挙げて答えられることでしょう。

にぎやか家族 ③

飯野川仲町



左から、梨瑚ちゃん、彩未さん、くるみちゃん

山内 彩未さん（8歳） 酒屋さん
 梨瑚ちゃん（4歳） 化粧品屋さん
 くるみちゃん（4歳） ラーメン屋さん

〈両親から〉

3人これからも仲良くね。元気な事が一番です。よく食べてよく遊んで健康でいてほしいです。

今月の表紙から

小女子は、イカナゴの稚魚で、糸のような細長い魚という古語に由来しています。体は円筒形で細長く、腹ビレはなく、沿岸地域に棲息しています。餌は、動物プランクトンで、冬に産卵し、海水温が高くなる夏には砂に潜り夏眠します。春を告げる魚のひとつです。小女子には、ビタミンDとカルシウムの両方が含まれているので、カルシウムが効率よく摂取できます。また、不飽和脂肪酸の「EPA」が多く含まれているので、中性脂肪を低下させたり、脳血栓を防ぐ効果があります。調理方法は、和え物、煮物、天ぷらかき揚げなどがあり、なかでも、佃煮のひとつで「くぎ煮」が有名です。できあがったものが、茶色く曲がっていることで、錆びた釘にみえることから呼ばれるようになった。

今回は、小女子漁が最盛期の4月下旬に雄勝町大須の阿部さんが、雄勝漁港で水揚げしたところを取材しました。今年、3月下旬から漁が始まり、夕方漁に出て、翌朝4時ごろ水揚げし、ほとんどが地元の水産加工業者が引き取るそうです。阿部さんに小女子漁と仕事について聞くと「昨年は、山元町沖で、貨物船座礁事故による油流出の影響で水揚げが激減しましたが、今年は、ようやく4月下旬から水温が上昇し、だいぶ水揚げが安定してきました。仕事は、つらいことが多いのですが、やはり大漁のときは、とてもうれしくなりますね。この仕事（漁師）には、夢や希望がたくさんあります」と話していました。



阿部 悟さん（雄勝町大須）



サークル仲間

なかま ③②

親子で楽しく活動しています!!

子育てサークル「ひよこの会」

今回は、牡鹿地区の子育てサークル「ひよこの会」の皆さんを紹介します。

毎週火曜日午前10時から11時30分まで、牡鹿保健福祉センター「清優館」を会場に、子育てサークル「ひよこの会」が活動しています。

現在、親子10組ほどが参加し、会費は月300円です。

子ども達は、ホールで、元気いっぱい走ったり、大きなブロックなどで遊び、お母さん達は、子育てについての悩みを



相談しあうなど、和気あいあいとした雰囲気です。季節の行事や活動内容は、お母さん達で話し合っています。



決めています。節分・ひな祭り・七夕などでは折り紙を使って親子で制作したり、また、クリスマス会もあり、季節の行事を工夫しながら親子で楽しんでいきます。

乳幼児健診が、本庁地区で行われるようになってから、牡鹿地区のお母さん方で集まる機会が少なくなり、近所にママ友達を見つけたことが難しくなりました。子ども達やお母さんもいろいろな方との交流を楽しみにしていますので、ぜひ、皆さん、興味のある方は遊びにきてください。

なお、問い合わせは、牡鹿総合支所

保健福祉課健康対策グループ ☎45・

2113まで



支えあって

千葉 信男さん よしのさん ご夫妻（北上地区十三浜）

今回は、北上地区で長年農業を営んできた千葉さんご夫妻を紹介します。

当時の誰もがそつであつたように、親同士が決めて、結婚式で初めてお互いの顔を合わせたそつです。（今の時代では信じられませんか！）

「振り返れば、60年。夜明け前から、日が暮れるまで働きどおしの毎日だった」と話す千葉さん。現在、娘夫婦と孫の5人で暮らしている千葉さんは、大農家であり、米作りの傍ら、炭焼き・養蚕・萱刈り・そして酪農をしながら、3人の子ども達を育てました。

今、お二人は、毎朝、家族が仕事に出た後、ゆっくり食事をし、その後の「野菜作り」をすることが、楽しみだそつです。

よしのさんは、月1回の「配食ボランティア」に参加していて、その食材に野菜を提供して、みんなに喜んでもらうことが嬉しいそつです。また、道行く人たちに、「あんだいで、野菜あんの？」と、声を掛け、振る舞つのが喜びとなっています。

昔から働くことが生きがいになつているお二人のもつこつのは、昭和

27年から通い続けている須川温泉（栗駒山）での湯治です。信男さんは、「こつして元気でいられるのも、須川温泉の白湯とお湯と、よしのさん手作りの数種類の果実酒をブレンドして毎晩飲んでいられる」と感謝していました。

二人支えあつて60年。これからも仲良く手を取りあつて元気でいてください。



おわびと訂正 市報5月号25ページ「サークル・仲間」に次の誤りがありましたので、おわびして訂正します。

渡波生活学校の代表（2段2行目）誤…阿部さん 正…津田さん